

# ご挨拶

## "新年のご挨拶" – 令和4年元旦 –

新年明けましておめでとうございます。  
皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

令和3年4月に『地方独立行政法人 市立大津市民病院』理事長として着任して早や9か月が経過しました。令和3年はまさしく新型コロナウイルス感染症の対応に多大な労苦を強いられた1年で、その真ただ中に突入した形となりました。

令和2年末より第3、4、5波が次々に襲来し、感染者数も後になるほど増加しました。弊院は県下唯一の第一種感染症指定医療機関として、県や市とも密接に連携を取りながら、最重症例、重症例を中心に受け入れてきました。

敷地内に設けた『感染症 ER』も多くの患者の皆様にご利用いただきました。職員は使命感をもって率先して対応してきました。

令和2年度当初は明確な予防法や治療法が確立されていなかったこともあり、一時期、一部の病棟閉鎖、手術/救急停止、診療制限などを余儀なくされました。

しかし、今年度は科学的かつ機能的な感染対策により、診療制限なく従来どおり通常診療を行っています。一般診療部門で感染リスクが増加することはありません。ドックなどの健診や訪問看護も平常どおり行っています。また、一般救急診療においても、弊院の基本方針にあるように『24時間365日、常に安心して受診できる病院』を実践しています。

本年も、地域の先生方とも緊密な連携をとりながら、幅広い疾患に対する高度な医療体制を提供してまいりますので、どうぞご安心のうえ『市立大津市民病院』をご利用下さい。

令和4（2022）年元旦  
市立大津市民病院 理事長  
北脇 城

# ご挨拶

## "新年のご挨拶" – 令和4年元旦 –

明けましておめでとうございます。

皆様には健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

2年以上続いている新型コロナウイルス感染症によって、われわれの日常行動は大きく制限され、生活は大きく変化してきました。

病院においても、日々の診療への影響だけではなく、面会といったこれまで当たり前であったことを禁止せざるを得ないなど、患者さんや家族の方々にとっても非常にストレスな状況が続いております。

どのような状況においても、われわれは、「信頼の絆でつながる、市民とともに歩む健康・医療拠点」という病院理念に則り、市民の命を守り、地域医療を守る病院としての使命をしっかりと果たして行く所存です。

さて本年の干支は壬寅（みずのえとら）です。ご存知の通り、干支は十干十二支からなり、十干は太陽を、十二支は月を象徴とした生命の循環を表し、この組み合わせからなる干支に、古の人は、大いなる神の意志をみてきたとのことです。

壬寅の壬（みずのえ）は、妊に通じ、厳しい冬に耐えて内に蓄えた陽気で次代の礎となる意味があり、土の下で芽が膨らみ土が盛り上がるイメージとのことです。

一方、寅（とら）は、蟻（ミミズ）に通じ、春の発芽の状態を表し、豊かな実りを助けるミミズが土の中で動き、芽吹き始めた状態を意味し、暖かくなって虫たちが動き始め春を感じるイメージとのことです。

長きにわたるコロナ禍のなかではありますが、ワクチン接種・抗体療法・経口薬など、終息へ向けての明かりが見えてきていることも事実です。

厳しい冬を耐え、春を待ちわびている状況において、壬寅である本年が、文字通り希望の年となるよう切に祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

令和4（2022）年元旦  
市立大津市民病院 副理事長・院長  
若林 直樹